

第 6 期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第 6 期宇治市生涯学習審議会 第 11 回審議会				
日 時	平成 27 年 2 月 10 日 (火) 午後 2 時 ~ 4 時				
場 所	生涯学習センター 2 階 一般研修室				
出席者	委 員	○ 奥西 隆三	○ 向山 ひろ子	○ 清水 桂子	
		○ 門脇 洋子	弓指 義弘	○ 六嶋由美子	
		○ 迫 きよみ	× 大井 悟	○ 木村 孝	
		× 杉本 厚夫	× 桑原 千幸	× 長積 仁	
		○ 森川 知史	○ 小宮山 恭子	○ 西山 正一	
	事 務 局	○ 藤原 千鶴 (教育部次長(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)			
		○ 松崎 満 (教育部次長(兼)教育支援センター長(兼)一貫教育課長)			
		○ 富治林 順哉 (教育支援課長)			
		× 安達 昌子 (生涯学習課主幹 (兼) 生涯学習センター主幹)			
		○ 今莊 真樹 (生涯学習課主幹)			
		○ 西村 比口支 (生涯学習課生涯スポーツ係長)			
		○ 北池 顕子 (生涯学習課事業係長 (兼) 生涯学習センター主査)			
		○ 前田 紘子 (生涯学習課生涯学習係長)			
		○ 村上 信之 (生涯学習課生涯学習係主任)			
○ 粕谷 祐次 (生涯学習課生涯学習係主任)					
傍聴者	0 名				

会議要旨は、下記のとおりである。

・第 10 回審議会の会議録について

訂正がないことを確認し、ホームページで公開する。 委員了承

1 . 報告事項

(事務局)

・平成 26 年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について

平成 27 年 1 月 23 日 (金) 宇治市中央公民館にて開催。出席委員は 9 名。全体会で研修会の趣旨が説明され、3 つの分科会に分かれた。分科会では、井手町、木津川市、京田辺市の社会教育委員よりそれぞれ課題提起がなされ、意見交換が行われた。

(事務局)

第 1 分科会は井手町による、京のまなび教室に関する取り組みの発表であった。小学生に対し高校生がヒップホップダンスを教える機会があり、見学の保護者や幼い兄弟も参加し、楽しんでた。かまどでご飯を炊く体験では、地域の子どもをみんなで見ようという

趣旨のもとに、親子を別の班に分けた。終わる頃には、和気あいあいとしていた。

(委員)

第 2 分科会では、木津川市社会教育委員による、2 月 8 日開催の寸劇の紹介があった。社会教育委員とは何かという問いかけに答えるもので、手作りで台本を書き、観客も巻き込んで行うとのこと。実際に一部が実演され、大変迫力があった。

(委員)

2 月 8 日に木津川市の寸劇の発表を見に行った。「社会教育委員ってなあに」と題し、社会教育委員 14 名が自ら脚本・演出・監督・出演をしているもので、大変わかりやすかった。その後、民間人校長による「大人があかんのじゃ」と題する講演があり、「子どもが憧れる輝く大人になろう」「知識や経験は積めるがチャンスは貯金できないので積極的に乗ろう」など大人に対するメッセージが語られた。

(委員)

全体会の会長あいさつでは無縁社会の広がりについて言及されていた。第 3 分科会は京田辺市の青少協(青少年問題連絡協議会)の活動について紹介。組織の構成は、民生委員や P T A、子ども会である。夜まわり先生を講師に招き講座を開催したところ、約 200 人の参加があり大盛況であったとのこと。意見交換ではそれぞれが行っている取り組みの紹介が多かったが、宇治田原町では参加者の増加を図るため、役員や参加者を多少強引にでも引っ張っていくと話していた。宇治市の青少協も活発に活動していると思うし、他市もがんばっているというのがよく伝わったが、個人的には成功談が多かったように思う。

(委員長)

社会教育とは何かということは常々テーマになるので、これからも考えていかなければならない。

・平成 26 年宇治市ジュニア文化賞、スポーツ賞について

(事務局)

各賞の概要説明及び受賞件数について報告。市政だより 3 月 1 日号に掲載予定。

(委員)

ニュースで見たが宇治市のジュニア文化賞受賞者が世界で活躍していて嬉しくなった。

・宇治市スポーツ推進計画について

(事務局)

平成 26 年 8 月の第 1 回見直し委員会開催後、作業を進め、平成 27 年 1 月 9 日から 2 月 9 日までパブリックコメントを募集した。仮集計だが 27 名 64 件の意見が出された。意

見集計後修正案を 2 月 23 日開催予定の見直し委員会に諮り、年度内に作業を終える予定。

・宇治市教育委員会の所管する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書
(平成 25 年度実施事業)について

(事務局)

平成 20 年の地方教育行政における組織、運営に関する法律の一部改正により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが義務付けられた。その報告書に基づき、2 人の学識経験者によって、宇治市教育振興基本計画とも照らしあわせながら、意見書としてまとめられている。その内容は、市ホームページや行政資料コーナー、各学校等で公開している。

(委員)

以前より思っていることだが、教育委員と生涯学習審議会委員との交流ができないか。

(事務局)

検討課題とする。

2. 協議事項

・今期のテーマについて

(委員長)

今回は報告書の提案の部分について特に意見をいただきたい。近年の流れとして、社会教育が見直されてきているが、生涯学習と社会教育の関係が分かりにくくなっている。社会全体の流れの中で今期議論したものを組み込んでいきたい。

欠席の委員からも意見をいただいている。「SNS の広がりなどの自分にとって都合の良い人間関係で充足感を得ている」というところだが、時間や機会の制約により難しかった、人とのつながりを可能にしている面もあるとのこと。これはその通りだと思う。

(委員)

宇治市での子どもの支援活動について、少年少女合唱団、スポーツ少年団などの活動もあると思うが、教育委員会で管轄している事業だけを記述するのか。

(事務局)

市民が主体となって支援している活動を記述する。少年少女合唱団は市長部局の事業で趣旨が異なる。スポーツ少年団は教育委員会の管轄である。

(委員長)

第 4 期の報告書でボランティア団体についてまとめたので、その中にも子どもに関わる

団体が出てきていたと思う。

(委員)

乳幼児以上の年齢に関する活動について、取り組んでいる団体のことを網羅している団体や情報誌のようなものがない。

(委員)

最近テレビで見たクイズで、日本の習い事をしている人の割合は意外にも選択肢中最下位だった。子どもがたくさん習い事をしている感覚はあるが、大人がしていないという実態がある。大人が学ぶということが根付いていない。生涯学習に関しては、ある程度は浸透してきていると思うが今は次の段階に入っていると思う。学んだことを社会に還元していくということが必要ではないか。大人が学ぶことの啓発が必要。公民館やコミセンも、還元しているところに優先して貸せるようになればいいと思う。

(委員長)

その番組は私も見たが、日本の習い事率は高いように思えるのだが、実際には大人が学んでいないので、全体数として割合が低くなるということだった。大人が学んで還元していくということの必要性は、提案の中でも反映させたいと思う。

(委員)

生活困窮者自立支援法が制定され、貧困の連鎖を断ち切るために、子どもの支援を実施している自治体があったがそこではうまくいかなかったらしい。これからは学力支援に留まらない支援が必要ではないか。今回の報告書の範囲からは外れる話題だと思うが。

(委員)

宇治市での子どもの支援活動の中で、学校支援地域本部事業というのがあるが、実施している学校はほとんどない。提案の部分では、学校支援コーディネーターについて注目するようだが、あまり活動されていないものをここに大きく挙げるよりも、できなかったことはできなかったと書いた方がいい。国・府がいう「地域コーディネーター」と宇治市の呼称である「学校支援ボランティア」という名称の違いからもイメージが変わってくる。

(委員)

東宇治中学校の「ちょボラ」がこれに当たる。プランターの配布などしている。学校支援地域本部事業の補助金は打ち切られたが、黄檗まつりもこの発足時に始まって今も続いている。

(事務局)

この部分をどうまとめるかについては検討する。

(委員長)

地域コーディネーターについては、学校の支援だけというものではないと思うし、提案の部分でも書き方を考えたい。

(委員)

参加者の取り合いになってしまうことがあるという話題が出たが。

(委員)

実際にそういうことはあった。民生委員がやっているところに他の団体が一緒にやりたいと来たことがあった。ある民生委員は他からの協力を求めているように見受けられた。みんなで協力したらいいのと思った。

(委員)

保育所での子育てひろばや園庭開放は毎日やっているのか。

(委員)

子育て支援事業の子育てひろばは常設。子育て支援センターは行政からの予算で運営されている。

(委員)

選択肢がたくさんあることは良いことだと思う。

(委員)

取り合いというより、連携せずにめいめいがバラバラに活動している状態ではないか。

(委員)

子育て支援を民生委員がやっているのはいいこと。一時期は地域外のところまで行く人がいた。今は他の地域に行く人は少ない。保育所とは競合していないと思う。

(委員)

かつてはクリスマス会を行うと、無料に近い金額で参加できて、景品がもらえるからか、各所を回っている子がいた。

(委員)

宇治の乳幼児の情報共有は成功していると思う。「0123 さい 宇治子育て情報誌」は、それぞれの活動を収集し、連携できるように作られた。情報を共有しようということが発端だった。内容が似たようなものは日をずらすなどしている。もちろん重なってしまうこともあるが、不平・不満を聞いたことはない。

(委員)

月一回第三水曜とかいうように、開催日を決めているところもある。

(委員長)

この部分については報告書でどう書くか検討する。

(事務局)

補足しておくとして、「0123 さい 宇治子育て情報誌」だが、こども福祉課の予算で、各部署の情報を集約している。もう 10 年以上経ち、定着している。何でもホームページで見られる時代だが、冊子の形にすることに子育て世代を中心に根強い要望がある。

(委員)

府下の他市の同様のものも見たことがあるが宇治市のものを参考にしたのかよく似ている。宇治市だけが毎年発行し続けている。対象が 3 歳で終わってしまうが、成長に合わせて各年齢向けのものができるとうい。

(委員長)

こういうものを成果として挙げていき、もっと出し続けられれば良い。

(委員)

学校はややもすれば閉鎖的な態度を取りがちだという意見が出たが、断定的すぎるのでもう少し柔らかくした方がいいのでは。

(委員)

例えば「すべてを受け入れるには難しい現状にある」のような。

(委員長)

表現については考える。学校は校長先生の異動で状況が変わる部分もある。

(委員)

そうでない学校もある。地域の力が強いのかもしれない。

(委員)

子ども会活動について、「地域のクリーン運動」が挙げられているが、子ども会は参加しているが主体的に開催しているわけではないので、代わりに子ども会が主催している夏の「ラジオ体操」運動を挙げた方が良い。

(委員)

委員の日ごろの活動の例として「民生児童委員」だけが紹介されるようだが、先の議論の「お客さんの取り合い」についても「民生児童委員」が出てくるので、他に比べて目につくのでは。

(委員)

全国的に見ても宇治の民生委員はたくさんの活動を継続しておられるので、挙げておいてもいいと思う。

(事務局)

他に具体的に並列して挙げる活動があれば良かったが、多くの委員が関わっておられる。「民生児童委員としての活動」ではなく、「地域福祉に関する活動」と書いてはどうか。

(委員)

「学校の求めに応じる」という表現も気になる。地域の小学校の事業では左義長と餅つきは私も手伝いに行くが、ボランティアに行く自分自身が楽しんでいる。

(事務局)

本日欠席されている学校関係の委員からも意見を聴取しておきたい。

(委員)

提案は、学校支援コーディネーターの養成と、学校教育と社会教育の連携の推進と二点あるということで良いか。後者の方をもっと強調してほしいと思う。意見交換の機会がなかなか今までなかった。

(委員長)

提案はその二つという形になっている。並列でない方が良いか。

(事務局)

教育支援課で、学校評議員の全体会が初めて企画されている。

(委員)

評議員だけなのか、教員も参加するものなのか、初めての開催なので楽しみでもある。

(委員長)

これまでは任期ごとに報告書を提出してきたが実現化できていない。この学校教育との連携の部分は重要な部分なので実現が望まれる。

(委員)

検証していくためにも、達成の度合いを数値で評価することは難しいか。

(委員長)

教育振興基本計画策定時にも指標を作ったことはあるが、数値をもって説明することは難しかった。何らかの形で検証は必要なので課題ではあるが、今回の提案ではそこまで言及できない。

(委員)

提案の実現具合を検証し、また次の世代につなげていくためにも、評価の基準があれば良いと思う。

(委員)

報告書というのは、現状の報告なのか、提案をするものなのか。タイトルは「～社会教育の推進に向けて」など、未来に向かった形の方が前向きで良いのではないか。

(委員長)

両方である。これまでのタイトルはどうであったか。

(事務局)

第 1 期「参画・協働の生涯学習社会を目指して」、第 2 期「親教育（親になるための教育）の支援を考える 子育て世代（20～40代）の生涯学習」、第 3 期「宇治市における生涯学習としてのボランティア活動」、第 4 期「人と人のつながりと地域社会 コミュニケーションについて考える」、第 5 期「生涯学習の場としての社会教育施設等について」となっている。

(委員長)

実現を目指したタイトルを検討したい。

(委員)

実現のためには、教育委員会からの働きかけも必要。

(委員長)

社会教育と生涯学習の違いの部分では何か意見はないか。研修会や大会でも必ず話題になるテーマである。それぞれの立場によっても意見は変わってくると思う。

(委員)

私の感覚では、個人的な営みが生涯教育、社会へと還元する気持ちがあれば社会教育という理解がある。心の問題のように思える。

(委員長)

公民館は社会教育の観点から人を育てるというものだったが、個人の学習を支援する方向に変わり、その結果様々な問題が出てきた側面があると思う。社会教育の要素をどう取り入れていくかが問題であり、次期以降でも議論したい。ただ、これが正しいと価値観を押し付けるような、昔の社会教育に戻すべきではない。

(委員)

社会教育と学校教育は並列で、社会教育の一部が生涯学習だと捉えている。

(委員長)

私は社会教育の中に学校教育があると思うのだが、あまりそうは捉えられていない。

(委員)

とにかく何か地域で行動を起こすことが社会教育に結びつく。

(委員)

自分の活動のどこからが還元になるのか。その感覚は人によって違うだろうが、もう少し具体的になれば、社会教育と生涯学習の違いもはっきりするのではないか。

(事務局)

毎年生涯学習関連調査を全庁的に行っているが、その中で定義しているのは、「市民が学習成果を生かして地域社会に参加し、様々な課題に取り組み、地域社会の発展につながることを、さらに、生涯学習活動を通じて人と情報の交流が生み出され、双方向の学びによる育ち合いが発展することを目指す」ということ。還元を目指す意識が担当課にあれば該当することとしている。

(委員)

夏休み子どもフェアやまなびんぐで出展しているパッチワークの講師がいたが、私の母が参加して、子どもたちに教えることが楽しかったと言っていた。サークルを通じて子ども達とも関わりができた。自分の趣味的活動でも、発表の場を与えることで、新たな気付きや意識が変わることもある。きっかけやアイデアを与え、スタンスは変わらないがその人の視点が変わって社会還元につながっていく。これがコーディネーターだと思う。

(委員)

一般の人は社会還元などを意識しないと思う。公民館まつりでも、サークル活動の発表や体験の場を設けて、一般の人にも喜んでいる。それも社会還元だと思う。私もお手玉教室で交流し、高齢者施設や学校で教え、きっかけになることもあるので楽しみにしている。自分の楽しみが外へ広がると、違うものが見えてくるのでは。

(委員)

我々の活動を教えた子が、「面白かった」、「やってみたい」と感じ、将来何になりたいかのきっかけになることもある。そういうきっかけを与え続けることが社会還元だと思う。

(委員)

大上段に構えて社会還元を意識して活動するよりも、本当に好きなことをしているだけで何かのためになる、という態度が潔いと思う。

(委員長)

逆の話になるが、テレビのニュースで大阪の地下道で自転車に乗っている人にインタビューしているのを見たことがある。ここで自転車に乗ってはいけないことは知っているが、楽なのでやってしまう。自転車の通行と生涯学習活動は、人に与える迷惑の点では違うが、皆がしたいことをしてしまうと皆が生きにくくなる。「どうせするなら何かのためになるように」と考えて行動すればよいが、好きなことをただ好きなようにしていると、公民館の場所取りで争うようなことになってしまう。公共に目を向けさせることが非常に大事な部分だと思う。

(委員)

宇治市内ではないが、以前私が公民館の場所取りで重なった他のサークルの人とじゃんけんをして、勝ったのに文句を言われたことがある。快く対応してくれたらその人の活動にも関心を向けられるのと思う。公民館での活動なので、一緒にやってみようとか、新しい人をまきこんで共存してやっていければと思う。他者への寛容性がないと、本当にただの貸し館になってしまう。

(委員)

わかるが、サークルの人も順番で場所取りに来ているので、ひとりの判断で一緒にやろうとか今回は譲ろうとか決められないものだと思う。

(委員長)

一般の人も使っている京都市内の公共施設で、何年か大学コンソーシアムの授業を行っている。前期の忙しい時期には、授業をしている時から、次に取っている人が、時間が過ぎないように待っている。今はそういう人が増えている。子どもを育てるにも大人を何とかしないといけないというのはつくづく感じる。

(委員長)

次回には形になった報告書を提示したい。事務局に今日の内容を集約してもらったものを送ってもらう。その際に私からは報告書の形にまとめたものを返す。他の委員からは意見を出してもらって、また事務局で統合していただくという形でお願いしたい。

3. その他

(事務局)

・宇治市生涯学習人材バンク研修会・交流会の開催について

平成 27 年 2 月 20 日(金)宇治市生涯学習センターで開催予定。当審議会の長積委員を講師に招き、主に人材バンク登録者を対象とした研修会や登録者間の交流会を行う。

・宇治市教育の重点「社会教育の重点」について

現在作成作業中。近日中に素案を作成し教育委員会に諮る予定。

< 次回の会議について >

平成 27 年 4 月 21 日(火)午後 2 時から